

石川 ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

れきはく

No.124

2018.1.23

トピックス Topics

赤レンガ建物でミニコンサート♪

当館では、リニューアルしたエントランスや屋外で、ときどき無料のミニコンサートを開催しています。演奏時間は30分程度と短めですが、これまでにフルートやクラリネット、サクソといった木管楽器やピアノ、ハープ、ギター、マリリンバなど様々な楽器の演奏者をお招きしてきました。

昨年12月9日(土)には、障害者週間にあわせて行われた「ふれてみるいしかわの文化展」の関連イベントとしてミニコンサートが2回開催されました。この日は筒井裕朗サクソフォンカルテットの皆さんに最近流行したJ-POPや映画音楽、日本の名曲、クリスマスメドレーなどを演奏していただきました。クリスマスメドレーでは、演奏者の皆さんもサンタ

やトナカイに変身し、参加者も手拍子をしながら楽しく鑑賞されていました。普段は博物館を訪れた子どもたちの声でにぎわうエントランスも、コンサートの日は楽器のきれいな音色に包まれて、ゆったりとした時間が流れます。

これからも多彩なイベントを開催しますので、赤レンガの博物館へどうぞお気軽にお立ち寄りください。



ミニコンサートの様子(2017.12.9)

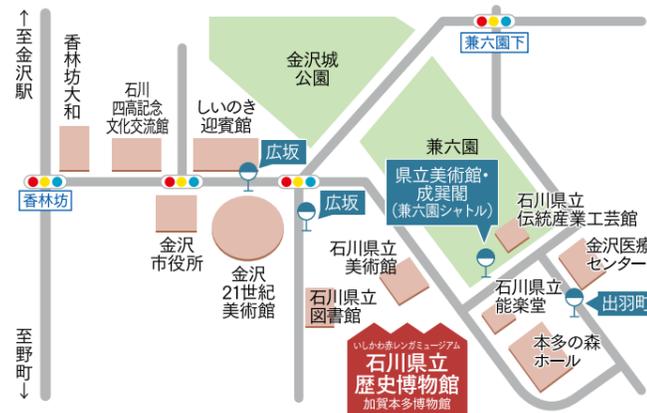
次回展覧会のお知らせ Upcoming Exhibition

平成30年度 春季特別展 「明治維新と石川県誕生」(仮称)
4月21日(土)～5月27日(日) ※会期中無休

日本の近代の起点となった明治維新が、石川の地域社会の形成に大きな影響を及ぼしたことはいうまでもありません。とくに、明治国家の骨組みが完成する明治20年代までは、その針路にいくつかの分岐点をはらむ激動の時代でした。本展覧会では、幕末の動乱から戊辰戦争、維新の諸変革への対応、土族の民権運動や西南戦争・紀尾井町事件(大久保利通暗殺事件)などの土族反乱、さらに明治16年(1883)に現在の石川県域が確定する過程をたどり、明治前期の政治・社会を地域の視点から紹介します。



毛利嶋山官軍大勝利之図(本館蔵)



いしかわ赤レンガミュージアム
石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL: 076-262-3236 FAX: 076-262-1836
E-mail: rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
http://ishikawa-rekihaku.jp/



フレッツ光で賢くインターネットを始めませんか?

ひとつでも当てはまる方はお電話下さい。

☎

- ☑ 引っ越しの予定がある
- ☑ CSTVに興味がある
- ☑ インターネットの料金が低い
- ☑ インターネットの速度が気になる

0120-949-388

※「フレッツ光」とは、「フレッツ光ライト」、「フレッツ光ネクスト」および「fレッツ」(いずれもインターネット接続サービス)の総称です。
※NTT西日本の設備状況などによりサービスのご利用をお待ちいただく場合や、ご利用いただけない場合がございます。
※インターネットのご利用には、フレッツ光の契約に加え、別途プロバイダーとの契約が必要です。(別途月額利用料等がかかります。)

受付時間: 9:00～21:00 (年末年始を除く)
NTT西日本販売代理店
株式会社エイエス・コミュニケーションズ 原稿管理番号: REV0000224



あまぎ いとおしに まいどうぐそく
浅葱糸威二枚胴具足

企画展
れきはく
コレクション
2017

- 会 期 平成30年 2月3日(土)～3月18日(日) 会期中無休
- 会 場 石川県立歴史博物館 企画展示室
- 開館時間 9:00～17:00(展示室への入室は16:30まで)
- 観 覧 料 一般300円(240円) 大学生240円(190円) 高校生以下無料
 ※ ()内は20名以上の団体料金、65歳以上は団体料金 上記の料金で常設展もあわせてご覧いただけます
- 展示解説 平成30年3月11日(日)13:30～14:00
 ※ 観覧料が必要です(申込不要)

企画展「れきはくコレクション2017」

石川県立歴史博物館では、石川県の歴史と文化に関わる資料を体系的に収集しています。現在収蔵している資料の多くは、県民の皆様からご寄贈いただいたものです。平成29年にも、下記の一覧表のとおり、約280点の資料をご寄贈いただきました。この展覧会では、この1年間に当館が新たに収蔵した資料をお披露目します。

ここでは、展示品のなかでも、特に注目される資料をご紹介します。

浅葱糸威二枚胴具足（表紙写真）

江戸時代前期（17世紀末）の甲冑で、前胴には「鉄鑄成」の文字が銀流しで付けられています。また、胴の脇には「雲海光尚造之」の銘が刻まれていて、加賀藩の甲冑師、雲海光尚の作であることがわかります。雲海光尚は、前田利常の時代に甲冑などの武具の製作を手職とした春田鍛冶の浅井勝光の養子にあたります。兜や籠手などに「丸に縦三つ引」の家紋が付けられていますが、この紋を家紋とする加賀藩士には由比家（由比勘兵衛家・由比民部家）があり、この甲冑は由比家の伝来と考えられます。

金谷御殿御式台臺股

臺股は、梁などの上のせる建築部材で、カエルの股

平成29年新収蔵資料一覧（受入順、敬称略）

資料名	点数	寄贈者
農業図絵自叙及び目録	1	林 哲也
小学図画帖（久保田米僊著）	4	個人
ツルカメ	1	安田 慎一
御櫃	1	〃
ワラスグリ	1	〃
ショイコ	1	〃
金谷御殿御式台臺股	1	鐺木 紘一郎
桂田家資料	188	桂田 哲夫

のような形をしていることからその名がつけました。この臺股には、「弘化元年 金屋御殿御式台 鐺木与左エ門作之」の墨書があります。金谷御殿は、金沢城の金谷出丸（現在の尾山神社の場所）にあった御殿で、前藩主や前藩主夫人の隠居所、世子（次代藩主）の住居に使われました。1845（弘化2）年に前藩主前田斉広夫人の真龍院が使う松御殿と世子の慶寧が使う金谷御殿が並立することになり、御殿の増改築が行われました。この臺股は、その際に取り付けられたとみられます。

加賀国元禄郷帳

江戸幕府は、全国の諸藩に命じて、各国ごとに村名と石高を記した帳簿（郷帳）と国絵図を提出させました。郷帳は慶長・正保・元禄・天保の計4回作成されましたが、元禄郷帳は1700～1702（元禄13～15）年にかけて各国で作成され、この資料は加賀国の郷帳の写本にあたります。

紙面では一部の資料しかご紹介できませんでしたが、その他にも多くの貴重な資料のご寄附を賜りました。最後になりましたが、貴重な資料をご寄贈いただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

資料名	点数	寄贈者
山田家資料	48	山田 真郎
第2回国体記念スタンプ付葉書	3	池田 陽一
寺谷家資料	8	中井 恵子
加賀国元禄郷帳	1	山本 竹次
お旅祭り絵葉書	8	福原 敏男
浅葱糸威二枚胴具足	1	富木 誠一
富木家資料	15	〃



金谷御殿御式台臺股



農業図絵目録



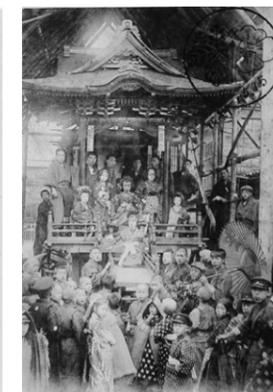
加賀国元禄郷帳



琉球丸盆（山田家資料）



蕪村画三十六ヶ仙
（桂田家資料）



お旅祭り絵葉書



ツルカメ

学芸員
コラム“ごちそう”のレプリカ!?
～日露戦争時のロシア軍捕虜将校の食事～

当館の第2展示室には、明治時代から第2次世界大戦後の高度経済成長期のくらしまでをあつかった「近現代のコーナー(近代国家と石川県)」があります。このコーナーの展示資料の中で、ひときわ異彩を放っている展示資料が、今回話題に挙げている「ロシア軍捕虜将校の食事(レプリカ)」です。

実は、このように言うのには理由があります。展示室の巡回作業中に来館者の後ろからこっそりついて行ってその会話を聞いてみると、ほとんどの方がこのレプリカを見て何らかの会話をしているのです。例えば、「えらい豪華やね」、「捕虜の食事でしょ。本当かね」、「おじいちゃんから聞いたのとはぜんぜん違うな(第2次世界大戦時のことかと思われる)」などという会話が聞こえてきます。また、小・中学生を案内した場合などは、必ず生徒さんに「捕虜の食事だけど、どう思うかい」と聞いてみます。そうすると、「これなら早く投降して捕虜になりたいなあ」という意見も出てきます。もちろん博物館の歴史展示資料ですから、裏付けのないレプリカではありません。

日露戦争の全期間を通じてのロシア軍捕虜の数は、約8万人(うち日本国内での収容者は、約7万2千人)で、日本全国29の都市で捕虜収容所が開設されました。日露戦争開戦の翌月、明治37年(1904)3月に最初の収容所が愛媛県の松山で開かれ、金沢での収容所設置は全国で17番目、明治38年3月のことでした。石川県では約6000名の収容が陸軍省から命じられ、大きな寺院などを収容所としました。東別院・西別院では急きよ遷仏し、受け入れを行ったといいます。また、当時のロシアは他国をもその領土とする帝国であったので、捕虜将兵のうち欧露人が東別院や天徳院、ポーランド人が西別院や大乘寺というように人種別に分けて収容しました。そして、将校は兼六公園内の石川県勸業博物館で収容しました。当時の石川県知事や金沢市長は、県民に対して敵情心に駆られて軽挙妄動に走らないよう注意を促す告示を出しており、新聞紙上でも捕虜の取り扱いに関する注意喚起がなされています。

そうした中で、当時の新聞紙面(『北國新聞』明治38年3月29日付記事)に捕虜将校の1週間分の献立が掲載されていました。これをもとにして、食事の復元とレプリカの制作が発案されました。しかしながら、食事の古写真などの献立以外の資料はありませんでした。そこで、大阪の梅花女子大学食文化化学部の東四柳祥子氏に監修を依頼して、明治時代の日本の料理書に基づいて、食事を再現することになりました。



しかし、ここでまた問題が浮上しました。それは、明治後期の料理書に記載のない料理は考証・復元できないという問題でした。特に、当時の日本には豚肉食の習慣がなかったため、豚肉を使った料理が日本の料理書には出てこないということでした。こうして、再現調理は考証が可能な、金曜夕食の献立になりました。大学の調理室でビーフシチュー、ベーコンエッグ、菓子(ホットビスケット)、果物(蜜柑)、白食パン、紅茶を再現調理し、“ごちそう”をその場で展示業者へ渡して、このレプリカが作成されました。

さて、捕虜の食事は毎日牛肉や豚肉が使われており、当時の一般の日本人の食事よりもかなり豪華であり、捕虜を厚遇していることが見てとれます。また、捕虜に対する厚遇は日露戦争当時、日本国内29都市に置かれた捕虜収容所すべてで行われており、金沢の収容所に限ったことではありませんでした。それにはいくつかの理由がありました。ひとつは、日清戦争時の旅順占領に際しての日本の軍事行動について、欧米からの批判をうけたことへの反省がありました。つまり、国際法の順守の強調から、ロシア軍捕虜への待遇に気を使ったのでした。また、幕末期以来の不平等条約の改正問題や、日露戦争にかかる膨大な戦費を欧米からの外債で賄っていたことも、捕虜の待遇について欧米から批判を受けないための配慮の背景にありました。さらに、戦争相手国のロシアは、捕虜問題を始めとする国際戦時条約の整備に最も積極的であった国ともいわれています。

こうした時代背景から、異彩を放つ展示資料が誕生したのでした。ぜひ今一度、「ロシア軍捕虜将校の食事」を見に来ていただければと思います。

(学芸主任 石田 健)

教育プログラム
Educational Program

大人が主役となるワークショップとは?

当館では年間を通して定期的にワークショップを開催しています。その多くは親子連れがおもな参加者ですが、中には大人の参加者が目立ったワークショップもあります。今回はそうしたワークショップを2つご紹介します。

まずは夏季特別展のミラー刺繍から。ミラー刺繍は布地に鏡の破片を縫い付けていくインド伝統のものであり、今回は国立民族学博物館の上羽陽子准教授を講師にお招きして行いました。このワークショップは昼食を挟んで行う大がかりなもので、特別展の解説の後に刺繍を行いました。まず特別展の解説ですが、展示担当者の解説ということもあり質疑応答が盛んに行われました。続いてミラー刺繍ですが、鏡を布に縫い付けるのはコツがいるようで、皆さん講師のレクチャーに熱心に



「光放つ布 インド伝統のミラー刺繍を体験!」(2017.8.5)

見入っていました。今回は鏡の破片ですが、この技法は他の材質でも応用が利きそうです。

次は秋季特別展のワークショップ「ミニチュア枯山水をつくらう」です。内容は、講師に「みどり屋 和草」の大島恵氏をお招きし、禅の文化のひとつ「枯山水」をミニチュアで制作するというものです。最初は白砂を敷き、レーキ(熊手)で砂紋を描きます。ところがこのレーキの力加減が意外と難しいようで、皆さんは慣れるのに苦労されている様子でした。続いて砂紋と石を組み合わせていきます。キットに付属している天然の石は、どれ一つとして同じものはありません。講師の大島さんのお話にもありましたが、砂紋も石も何に見立てるかはそれぞれの自由なのです。参加者の皆さんも、砂紋を描いては消してを繰り返し、日常を忘れて作庭に取り組んでいました。



「ミニチュア枯山水をつくらう」(2017.10.14)

普段のワークショップは親子の会話が目立ちますが、この2つのワークショップはその日同じテーブルになった人同士での会話が弾んでいくことが印象的でした。今後も「れきはく」では幅広い世代に楽しんで頂けるワークショップを企画していきます。どうぞご期待ください。

(学芸員 野村 将之)

■催し物案内 展示解説や各種講座などの情報を
Information お知らせします。

○学芸員によるワンポイント解説(全11回) ※要観覧料、申込不要
毎月1回、金曜日に実施している展示解説。当館の学芸員が博物館のみどころを紹介します。

【時間】13:30~14:00 【場所】展示室

○れきはくゼミナール(全11回) ※受講無料、申込不要
毎月1回、土曜日に実施している博物館講座。当館の学芸員が独自のテーマを設定し講義します。(3月は月2回)

【時間】13:30~15:00 【場所】ワークショップルーム

○古文書講座(前期・後期各3回) ※受講無料、要申込
当館の学芸員が古文書の読み方や内容を解説します。

【時間】13:30~15:00 【場所】ワークショップルーム

*前期分は終了しました。
後期分受講者は12月1日より募集します。

2月 ※2月の休館日 2/1(木)・2/2(金)

17日(土) れきはくゼミナール
テーマ 加賀藩領内の寺社のご開帳
講師 学芸主任 塩崎 久代

22日(木) 古文書講座
テーマ 村人たちの旅と商い
講師 学芸主任兼資料課長 濱岡 伸也

23日(金) 学芸員によるワンポイント解説
テーマ 能登客院と福良津
講師 普及課長 永井 浩

3月 ※3月の休館日 3/19(月)・3/20(火)

1日(木) 古文書講座
テーマ 村人たちの旅と商い
講師 学芸主任兼資料課長 濱岡 伸也

10日(土) れきはくゼミナール
テーマ 渤海交渉と羽咋
講師 普及課長 永井 浩

17日(土) れきはくゼミナール
テーマ 江戸時代後期の九谷焼一窯道具、知ってますか?—
講師 学芸員 野村 将之

23日(金) 学芸員によるワンポイント解説
テーマ 珠洲焼と中世のやきもの
講師 学芸員 野村 将之

※各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします